

大阪市「帰国した子どもの教育センター校」の取り組みー 「日本語指導が必要な生徒」への教科理解支援教材の作成

矢嶋ルツ (「帰国した子どもの教育センター校」 大阪市立阿倍野中学校)

巖晶子 (「帰国した子どもの教育センター校」 大阪市立豊崎中学校)

実践の場の特徴

「帰国した子どもの教育センター校」は、大阪市に編入した日本語指導が必要な児童生徒に日本語指導を行い、自立した学校生活が送れるように支援している。

実践の目的

日本語を学習して日常会話ができるようになって、学校生活で一番長い時間をしめる授業の内容を理解する事は困難である。母国では理解できた内容も日本語が分からないために理解が難しく、自信をなくしている生徒も多い。特に中学校では進路と直面するため、学力保障が大きな課題になる。「日本語ができるまで待てない」という気持ちから、日本語指導が必要な時期から授業の内容理解を目的とした教材(理科と英語)を作成した。

具体的な実践の内容とその過程

1. 学習内容を整理し、図や絵を使って視覚的に理解できるように工夫した。
内容は重要語句+ α にし、問題を読み取る語彙やポイントを図から理解し、実際のテスト問題に対応できるようにした。(理科)
新出単語の数を抑え、問題をパターン化し基本文を定着できるようにした。(英語)
2. 新出漢字にはルビ打ちをし、日本語は分かち書きにした。
3. 日本語指導の段階をふまえ、提示の仕方を工夫した。

結果と考察

センター校で使用し、大阪市全中学校(130校)に配布して、アンケートを行った。生徒は分かる日本語で学ぶことで、日本語も教科も両方の力が伸び、成果がでた事でやる気につながった。分からない空白の時間を少なくし、3年間の学習内容を示せた。日本語指導と並行して教科学習を進める教材を提供し、具体的な教科学習の支援方法を提示することができた。

この教材は、大阪市教育委員会「がんばる先生支援事業」で作成した。
大阪市教育センター<http://www.ocec.jp/center/>
文部科学省かすったねっと <http://www.casta-net.jp/>で公開している。